**釧路湿原の植物**

28,788ヘクタールの釧路湿原は、原生林に囲まれています。この湿原内では、700種を超える種類の植物が生育しています。その多くは釧路湿原のみに生育しており、中には最終氷期から生き残っている種もあります。

沼地・湿原の植物

常に水気のある沼地には地下水が湧き、ヨシとスゲで覆われています。ミズゴケ湿原には、頻繁な降雨によって水が運ばれ、ハンノキ (学名: Alnus japonica) の森、高山植物、寒さに強い植物が生育しています。夏には、小型のオランダカイウのようなヒメカイウ (学名: Calla palustris) や、羽毛がついたようなミツガシワ (学名: Menyanthes trifoliata) の白い花が、湿地中に咲き誇ります。

泥炭の形成

寒冷で水気が多いため、枯れた植物は完全には分解されず、泥炭の層を形成します。釧路湿原内の泥炭は、およそ3,000年前に形成され始めました。時間の経過とともに、堆積層によって圧縮されて、この泥炭もついには石炭に変わることでしょう。このように、釧路地方の石炭の鉱床は、何百万年もかけて形成されたものです。それが現在まで採掘されています。